

果 樹

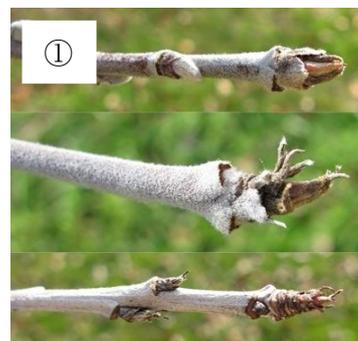
【共通】

- ・春先の休眠期防除や苗木の定植など作業適期を逃さないよう、気象状況や自分の園地の生育に注意し、しっかり段取りを行いましょう。
- ・りんごやぶどうの粗皮は病害虫の越冬場所です。休眠期防除の前に粗皮は削り取りましょう。

【りんご】

1 うどんこ病の感染芽や芽しぶの切除

うどんこ病は、芽の組織内で越冬し、発芽と同時に新葉に感染しますので、耕種的防除が必須となります。具体的には、感染した越冬芽（写真①）の切除（頂芽を含め枝先端の2～3芽を切除します（写真②））と、第一次発病芽（芽しぶ（写真③））の除去です。感染している芽は健全芽よりも10日程発芽が遅れ、「芽しぶ」と呼ばれる第一次発病芽となり、これに形成される分生孢子が風によって飛散して二次伝染源になりますので、この芽しぶの除去は非常に重要です。この時期は新しい葉がどんどん展開してきますので、薬剤防除だけでは防ぎきれません。発芽10日後の防除と芽しぶの除去を並行して行います。



2 黒星病・褐斑病の落葉処理

黒星病や褐斑病は落葉上で越冬していて、これが最初の伝染源になるため、落葉処理（土中埋没或いは焼却）が有効です（図1）。発芽前までに落葉処理を行いましょう。春草が生えていて処理しづらいこともあります。バーナーなどで焼却するのも手です。併せて休眠期防除も遅れないようにしっかりと行いましょう。

発芽後は新しい葉がどんどん展開してきます。開花期前後の防除だけでなく発芽10日後の防除も非常に重要です。省略せずに行うとともに散布間隔が空きすぎないように注意します。

黒星病は、花そう葉への感染をいかに最小限に抑えるかがポイントとなりますので、これらの対策が重要です。

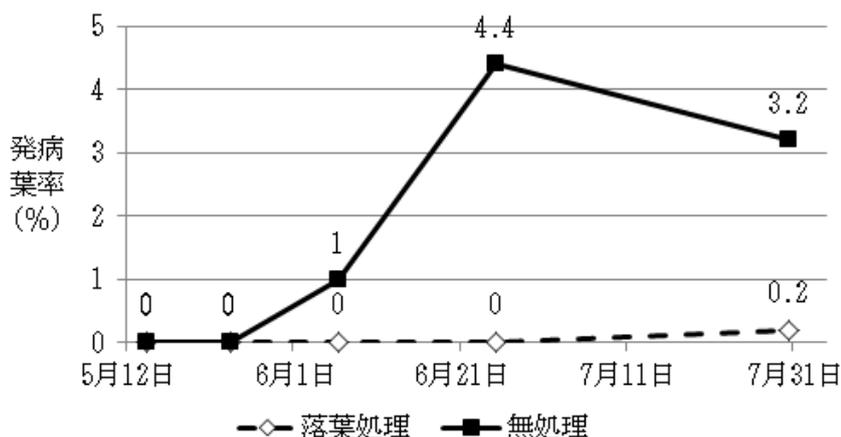


図1 落葉処理の有無とリンゴ黒星病の果そう葉発病葉率（H24、果樹試）

（少発生条件下であったが、落葉処理区は無処理区に比較して初発時期が約2ヵ月遅く、発生量も少なかった。）

【ぶどう】

1 棚を平らにする

平らな棚面は、ぶどう作りの基盤です。せん定が終わり発芽するまでの間に、鋼線がゆるんでいる部分などを締め直しましょう。

平棚やAマストの棚では、必要に応じて太い主枝の下などに支柱を設置します。パイプ棚は年を経るとパイプが波打つ場合があるので、クランプやジョイント位置を調整し、なるべく真直ぐにします。

2 結果母枝の切り方(短梢せん定)

結果母枝の間隔は20～25cmとします。また、できるだけ主枝に近い結果母枝の1芽あるいは2芽を残します。既に枯れこんでいる部分は、きれいに切除しましょう。水上がり後のせん定は、発芽不良・不揃いの原因となるので、水上がり前までに終了させましょう。

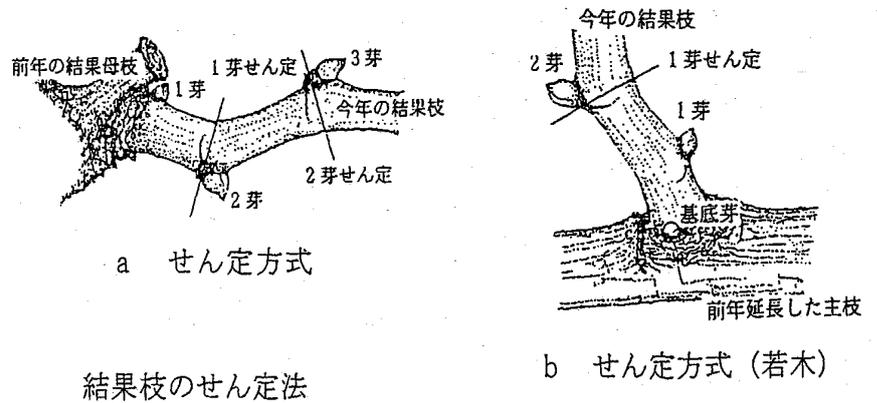


図2 結果母枝の切り方(短梢剪定)

3 目傷処理

長く伸びた結果枝は先端の2～3芽以外は発芽しにくいので、発芽させたい場合は目傷処理を行います。短梢栽培の主枝延長枝は、先端の2芽程度を除いて処理を行い、全ての芽が発芽するようにします。長・中梢剪定の徒長的な枝にも処理しましょう。芽の枝先側2～5mmの位置に、接ぎ木刀や薄歯ノコギリ等で木質部に軽く届く程度の傷を入れます(図3)。

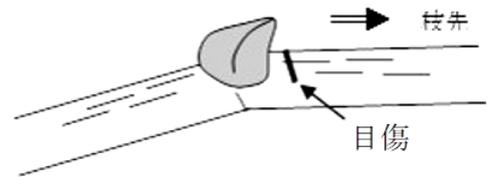


図3 目傷の処理方法

実施適期は樹液流動の直前です。時期を逸し、傷口から樹液が滴る場合は、芽を痛める可能性があるため処理を中止します。乾燥防止のため、傷口には塗布剤を塗布します。

4 休眠期防除

晩腐病等の防除にはとても重要です。殺菌剤の散布適期は発芽直前の芽が膨らんだ頃です。また、病原菌は切り残した穂軸や巻ひげで越冬しているため、これらを切除することも効果的な防除となります。